

(AIなど情報活用の話はよく聞きますが) AIや情報活用の大前提のDataCenterやエネルギー、ネットワークなどのハードウェア面の取り組みはどのような活動をされる予定でしょうか？  
特に情報とエネルギーの担保は重要な課題だと思いますが、データの使い方のみで、システム全体としての取り組みや課題感を知りたいです。

ご質問いただきありがとうございます。ご指摘の通りで、情報を利用する前提としては、通信やクラウドあるいはIoT機器といったインフラが不可欠です。農研機構の取り組みを中心に説明させていただきます。システム全体の取り組みとして農研機構においては、NARO統合データベースを構築しております。「農業データ連携基盤 Data Distribution platform」(通称：WAGRI)のAPIにより異分野業界とのデータの連携や機能の提供を実現しております。現在のWAGRIの会員数は現在85社で年々増えております。今後もこの仕組みを利用して農業分野でのデータ利用を推進していきます。

通信についても重要で、通信、ネットワーク面では、5Gへの取り組みや、アグリバイオ拠点構想では圃場から大容量通信でセンサーデータを送ることなどを試みております。また、農研機構は電気通信事業企業との連携協定を締結しており、クラウドやIoTデバイスなどのハードウェア面について協力いただきながら、現場での情報活用技術の普及を進めています。

情報活用のための電力(エネルギー)面での取り組みについては、目立ったものはございませんが、BCP対策としてデータセンター設置の際には電力面を考慮しました。

## 地域特有の食事は、慢性疾患にどのような影響をもたらすでしょうか？

日本食は、栄養バランスの優れた食事です。日本食は、主食としての米と、副菜としての魚、肉、牛乳・乳製品、野菜、海藻、豆、果物、お茶などの食材からなる食事です。システマティックレビューの結果は、野菜・果物・魚の摂取を増やして肉・塩分の摂取を減らすと、心血管疾患（CVD）の死亡リスクが低下することを示しています（文献1）。野菜・果物・魚の摂取は、さまざまな国で CVD の発生リスクを低下させました。食物繊維は血清コレステロールを下げることが示されています。野菜と果物は、食物繊維、カリウム、抗酸化ビタミンの主要な供給源であり、これらの成分は、慢性疾患と CVD による死亡のリスク軽減に寄与することが示唆されています。魚油に含まれる n-3 多価不飽和脂肪酸 DHA/EPA は、血清トリグリセリドを低下させることが知られています。

慢性疾患や心血管疾患による死亡のリスクを減らす可能性のある食品や成分については、次の論文を確認してください。

- (1) Shirota M, Watanabe N, Suzuki M, Kobori M. Japanese-Style Diet and Cardiovascular Disease Mortality: A Systematic Review and Meta-Analysis of Prospective Cohort Studies. *Nutrients*. 2022;14(19):2008. doi: 10.3390/nu14102008.